



令和4年度

東朽網通信

学力特集号

令和4年1月29日
北九州市立東朽網小学校
校長 濱松 千代美

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

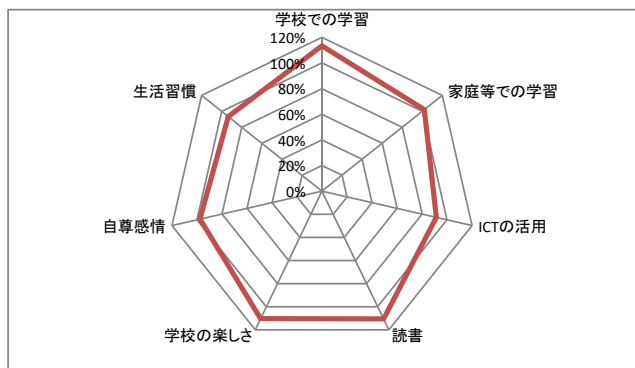
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	「読む」領域の、叙述を基に登場人物の心情を捉えたり表現の効果を考えたりする問題の正答率は、全国平均と同程度であった。「言葉の特徴や使い方に関する事項」の既習の漢字を文の中で正しく使うことや「書く」領域に課題が見られた。	下回っている。
算数	「式と計算」の乗法の計算の正答率は全国平均を上回ったが、除法や最小公倍数を求める問題の正答率は全国平均を下回った。「図形」領域、「変化と関係」領域の割合の問題、「データの活用」領域の資料の特徴を捉えて必要な情報を読み取る問題に課題が見られた。	下回っている。
理科	「エネルギー」「生命」の領域は、記述問題に課題が見られたが、選択式での正答率は全国平均と同等であった。「粒子」「地球」の領域は全国平均を下回ったが、水は水蒸気になって空気中に含まれていることの理解を問う問題の正答率は、全国平均を上回っている。	下回っている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・学校での学習では、「課題解決に向けて自分で考え取り組んだ」「友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深め広げることができる」と回答した児童の割合が全国平均より上回っている。家庭等での学習では、家で計画を立てて勉強をしている児童が多いが、「平日授業以外に1時間以上勉強している」と回答した児童の割合が全国平均より下回っている。

・学校の楽しさでは、「学校に行くこと」「友達と協力すること」が楽しいと回答した児童の割合は全国平均を上回っている。自尊感情では、「自分にはよいところがあると思う」と回答した児童の割合が全国平均より下回っている。生活習慣では、「朝食を食べている」と回答した児童の割合が全国平均より下回っている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・チャレンジタイム(補充学習)で国語と算数の基礎基本の定着を図ると共に、コグトレ(認知機能強化トレーニング)を導入して認知の能力の向上を図る。特に、国語では既習の漢字を正しく書けるようになること、算数では、除法の計算、図形の構成要素や性質を正しく理解できることを目指し学習を進める。
- ・理科の学習では、これまでの経験を基にして、予想を考える。また器具の名称の理解に努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・友達のよさを伝える時間の設定、児童会活動で児童同士のよさを認め合い広げ合う活動の推奨を行い、自尊感情の向上に努める。
- ・毎日の家庭学習課題の量を適正化すると共に、「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用して自主学習等の取組の充実を図る。
- ・学校通信等を活用して、早ね早起き朝ご飯を推奨する。